

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(中学年型(第4学年))

学校名
熊野町立熊野第三小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	2	2	2	2	2	12	3	15

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第4学年の指定教科等

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	4	2	5	10	
理科	4	2	3	6	
体育	4	2	3	6	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
外国語活動	3	2	1	2	

授業時数 計 2 (b)

授業時数 合計 24 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1
4年 1組 (担任: A)	A	A	A	推進	推進	専科	A	推進	A	A	A	A
4年 2組 (担任: B)	B	B	B	推進	推進	専科	B	推進	B	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2	5	2.6	1.7	1.7	3	1	1	2	1
3年 1組 (担任: C)	C	C	C	C	C	専科	C	C	C	推進	C	C
3年 2組 (担任: D)	D	D	D	D	D	専科	D	D	D	推進	D	D

4 第4学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
4-1	18	A				0	16.3	16.3
4-2	18	B				0	16.3	16.3

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が担当する教科数が減少し、授業外の時間の増加により、教材研究の時間を増やした。 ・同じ授業を2クラスで行うことにより、授業改善を図った。 ・体育科の授業では、運動好きを増やすために、導入に音楽に合わせて体を動かす「くま三エクササイズ」やACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を取り入れた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールタイムや休憩時間など、推進教員が児童と関わる時間を増やした。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールタイムにおいて、推進教員が個別指導を行った。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教科数が減ることで、一つの教科の教材研究に深く取り組めるようにした。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日で推進教員による授業を保護者に参観してもらった。 ・学校だより、学年だよりを発行した。



〈成果〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの平均正答率が、算数83.0%、理科89.0%の正答率であった。 ・教材研究に充てる時間の確保や同じ授業を2クラスで行うことができたため、児童の実態に合わせたヒントカードやヒントコーナーを準備することができ、児童の学習内容の理解が高まった。 ・校内アンケートにおいて「体を動かすこと(運動)は好きか」の項目において肯定的な回答が90.2%であった。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制に関するアンケートにおいて「いろいろな先生と話す機会が増えた」と肯定的に回答した児童が95%であった。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制に関するアンケートにおいて「教科担任制になってよかったと思う」と肯定的に回答した児童が97.5%であった。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートの「教材研究の深化や教材の工夫による授業改善につながっている。」の項目において肯定的な回答が100%であった。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年から教科担任制について知ってもらう機会になった。

〈課題〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによる児童の実態が違うため、同じ授業展開でも習熟に差があった。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員が関わることで、ある教諭は良いと言うことが、別の教諭ではだめだと言うなど、指導内容が教員によって変わることがあった。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や体育館、グラウンドなどへの教室移動が5分休憩では難しい場合があった。 ・前の時間の授業が延びてしまうと、次の授業の開始が遅れてしまい、授業時間の確保ができないことがあった。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教科の指導になるため、担当しない教科の指導力低下。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年から教科担任制が行われていることへの認知が低い。

〈対策〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を丁寧に把握し、柔軟に授業の流れや展開を変え、習熟を図る。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任との連携を密に取り、統一した指導を行う。また、校内で統一して指導することを明確にする。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任と連携して、時間割の調整を行った。 ・本時の目標を明確にした授業展開で45分間を有効に活用していく。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で授業スタイルを統一する。 ・教科を決めて、全職員での授業づくりや手立ての工夫を考える研修を行った。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信、学年通信、学校ホームページ等で教科担任制の取組を発信し、保護者理解を促進する。